

平成29年度

福井大学大学院工学研究科
博士前期課程
学生募集要項

推薦選抜

一般選抜

社会人特別選抜

外国人留学生特別選抜

平成28年 5 月

創造力、実践力。



国立大学法人

福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI

日 程 概 要		
選 抜 方 法	推 薦 選 抜	一般選抜・社会人特別選抜・ 外国人留学生特別選抜
出 願 期 間	平成28年6月16日(木)～21日(火)	平成28年8月22日(月)～25日(木)
選 抜 期 日	平成28年7月1日(金)	平成28年9月1日(木)～2日(金)
合 格 者 発 表	平成28年7月13日(水)	平成28年9月14日(水)
入学手続書類の送付	平成28年11月上旬	
入 学 手 続 期 間	平成28年11月14日(月)～17日(木)	

博士前期課程の一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜は，第2次学生募集を行うことがあります。その場合は，平成28年12月上旬に発表する第2次学生募集要項を熟読することによって，必ず本人の責任で確認してください。

目 次

I. アドミッション・ポリシー	1
II. 共通事項	
1. 募集人員	4
2. 出願期間	4
3. 障害のある入学志願者の事前相談	4
4. 合格者発表	5
5. 入学手続等	5
6. 長期履修学生制度	6
7. 安全保障輸出管理について	6
8. 個人情報の利用	6
III. 推薦選抜	
1. 出願資格	7
2. 志願専攻に関する事前相談等	7
3. 出願手続	7
4. 選抜方法等	8
IV. 一般選抜	
1. 出願資格	9
2. 出願手続	10
3. 選抜方法等	11
V. 社会人特別選抜	
1. 社会人特別選抜の概要	12
2. 出願資格	12
3. 出願手続	13
4. 選抜方法等	15
VI. 外国人留学生特別選抜	
1. 出願資格	16
2. 出願手続	17
3. 選抜方法等	18
VII. 学力検査等の方法	19
VIII. 工学研究科博士前期課程案内	
1. 各専攻の授業科目及び指導教員	24
2. 繊維先端工学専攻の分野及び想定される受験者の出身学科の例	30
3. 原子力・エネルギー安全工学専攻の分野及び想定される受験者の出身学科の例	31
IX. 学生募集要項等の請求方法	32

本研究科所定用紙（綴じ込み）

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| ・入学志願票 | ・写真票・受験票 |
| ・研究計画書(社会人特別選抜用) | ・推薦書(推薦選抜・社会人特別選抜用) |
| ・受験承諾書(社会人特別選抜用) | ・出願資格審査調書(推薦選抜を除く出願資格(9), (10)該当者) |
| ・振込依頼書 | ・封筒(受験票等送付用) |
| ・あて名票・入学願書受付票 | |

<注意>

- ・本入試に関するすべての事項は，志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって，必ず本人の責任で確認してください。
- ・この学生募集要項以外に重要な通知がある場合は，本学ホームページの「受験生の方へ」内でお知らせします。
[福井大学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/>]
- ・電話での照会は，祝日及び年末年始を除く，月～金曜日の9：00～17：00に，学生募集要項を手元に置き，必ず志願者本人が行ってください。

I. アドミッション・ポリシー

－人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的－

工学は、科学技術の創造を通して、人類の幸福に寄与する役割を担う。工学研究科では、確かな専門知識と高い倫理観を有し、自然や環境と調和した人間社会の豊かな発展に貢献できる高度専門技術者や研究者等を養成する。また、地域の研究拠点となることを目的に、基礎的研究から最先端技術の開発まで、工学に関わる幅広い学問分野の教育研究を推進する。

○機械工学専攻

機械工学分野の高度専門教育と先進的研究を通して、地域と国際社会の未来を支える科学技術の創造に貢献すると共に、人類の持続可能な発展に寄与できるグローバルな視点をもつ高度専門技術者を養成する。

○電気・電子工学専攻

電子物性とデバイス工学，エネルギー工学，システム工学の各分野において，高度かつ複雑化する社会ニーズに柔軟に対応できる専門知識と応用能力を有し，社会に対する倫理観と地球的視点からの洞察に基づき，上記3分野の融合も実践できる能力を兼ね備えた高度専門技術者を養成する。

○情報・メディア工学専攻

情報，通信，メディア工学に関する高度な専門知識の体系的な理解を基に，実世界の多様な問題に対してその本質を発見し，多角的，独創的なアプローチで問題を解決すると共に，種々の製品やシステムの開発を推進し，また開発成果を的確かつ効果的に発信する能力をもつ研究者及び高度専門技術者を養成する。

○建築建設工学専攻

建築建設工学科の学部教育に基礎を置き，建築から都市・国土におよぶ生活空間を工学の枠を越えて総合的に探求し，広い視野と高度な技術的能力を自ら発展・展開できる専門的資質を備え，ひいては人間社会に貢献できる倫理観をもった高度専門技術者を養成する。

○材料開発工学専攻

環境に調和した機能性材料やその新しい技術の創出に向けた独創的かつ論理的な研究の推進と，これらに裏打ちされた高度な教育を実施し，化学と物理を基礎とし，常に環境を意識しながら新しい材料の研究開発に取り組むことを通して，地域社会や国際社会で活躍できる高い倫理観とチャレンジ精神を兼ね備えた高度専門技術者および研究者を養成する。

○生物応用化学専攻

「化学」と「生物化学」の学際的領域における学術と研究の拠点として，人類の健やかな生活と持続可能で豊かな社会の実現に貢献するための教育と研究を推進し，高い倫理観と高度な知識・技術を身に付けた研究者および高度専門技術者を養成する。

○物理工学専攻

学部教育との一貫性にも配慮した大学院前期課程の教育により，物理学・数学・工学に関する広範な専門的知識を有し，職業人に求められる表現能力を身に付け，創造性のある研究・開発を自立的に行う能力をもつ高度専門技術者を養成する。

○知能システム工学専攻

機械・電子・情報などのハードな工学から生命科学・認知科学・複雑系科学などのソフトな科学にまで至る学際的科学技術に精通し、総合的なシステム提案・構築能力と創造性豊かな優れた研究・開発能力をもつ研究者、これらの理論的知識を生かして実務能力を身に付けた高度専門技術者、および、あらゆる分野で活躍することができ、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成する。

○繊維先端工学専攻

高性能・高機能繊維材料の創成を基盤とした多面的な教育・研究を推進し、繊維の科学的特徴の理解や繊維に関する確固たる専門知識と倫理観である「繊維マインド」をもち、多方面の分野で柔軟に対応できる問題解決型の実践力をもった研究者と高度専門技術者を養成する。

○原子力・エネルギー安全工学専攻

工学系のみならず、より幅広い学問領域の基礎的知識を基にして、原子力・エネルギー分野の安全および共生を基盤とする専門知識を身につけ、当該分野に関する種々の課題に対する学際的・学術的研究を通し、高い倫理観を有する高度専門技術者を養成する。

－ 求める学生像 －

「フレッシュな感性と学問への強い情熱」

1. 専門分野の高度な研究に主体的に取り組む人
2. 未来社会を支える科学技術の創造と開発に意欲のある人
3. 人間社会の持続的発展に寄与する研究開発をグローバルな視点から進める人

機械工学専攻	「21世紀の科学技術を創るのは君だ」 1. 機械工学の幅広い知識を、社会に貢献する科学技術の創造に応用できる人 2. 問題設定、解決にあたって独創性を発揮できる人 3. 機械工学のより高度な専門知識を活かして、国際社会で活躍したい人
電気・電子工学専攻	「高機能電子材料・高度社会インフラシステム・先端情報技術など、マイクロからマクロまでの挑戦」 1. 電気・電子工学分野の幅広い基礎学力を有する人 2. 社会を支える科学技術の発展のため、創造的研究に取り組む意欲のある人 3. 電気・電子工学分野の専門知識を国際社会の発展に役立てたい人
情報・メディア工学専攻	「人にやさしい高度 ICT 社会を支える技術者を目指せ」 1. 自然科学および情報・メディア工学分野の基礎学力を有する人 2. 夢と目標を持って情報・メディア工学分野の研究に意欲的に取り組む意志のある人 3. 大学院生としての自覚と使命感を有し、地域社会・人類社会のために自らを磨くことのできる人
建築建設工学専攻	「社会基盤の安全性と快適性を担う技術者を目指して」 1. 建築建設工学関連分野における基礎知識を有し、広い視野に立って研究に取り組むことができる人 2. 地域や環境に対する建築建設工学技術者の役割を考えながら、熱意をもって勉学に取り組むことができる人 3. 知識欲が旺盛で、学んだ知識を創造的に応用していく基礎能力を有する人
材料開発工学専攻	「先端材料開発を君の手で！」 1. 化学と物理の知識を基にもの作りにチャレンジしたい人 2. グリーンケミストリー、超分子、新エネルギー、ソフトマテリアル、医用材料、ナノ材料、最先端物質に興味のある人 3. 工学的センスを身に付け国際社会でグローバルに活躍したい人

生物応用 化学専攻	<p>「真理を究め技術を極めるー分子から生命までー」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学やバイオテクノロジーの分野での研究や技術開発を通して社会に貢献したい人 2. 社会の要請を踏まえて自ら研究・開発目標を設定し、その実現のために努力する人 3. 深い洞察力と独創的な発想力をもつ人
物 理 工学専攻	<p>「最先端科学技術を支える物理学の世界へ」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微小世界の素粒子物理学から巨大世界の宇宙物理学まで、現代物理学の最先端を学びたい人 2. 物理学を応用して21世紀の技術革新の牽引者になりたい人 3. 物理学やその応用分野の研究者への道を歩みたい人
知能システム 工学専攻	<p>「人の知能と行動生成メカニズムを究明し知能システムを創造しよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学や物理や工学一般などの基礎的能力および応用力のある人 2. プログラミング、機械工作、電子工作などが好きな人 3. 未知なるテーマにチャレンジして、新しいことを開拓していこうと努力する人
繊維先端 工学専攻	<p>「先端的な繊維技術で、世の中の役に立とう！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「繊維マインド」を持った高度な専門性をもつ技術者・研究者を目指したい人 2. 繊維先端工学分野の研究で、社会や地域に貢献したい人 3. バイオや材料の知識と繊維の知識を兼ね備えた技術者・研究者になりたい人
原子力・エネルギー 安全工学専攻	<p>「目指せ、原子力・エネルギーのオールラウンドプレイヤー」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い工学分野に関心を持ち、学部時代の専門分野について基礎学力が身に付いている人 2. 原子力・エネルギーに関する関心を持ち、高度な専門性を有する技術者・研究者を目指したい人 3. 安全、共生問題を通じて技術により社会へ貢献したいと考えている人

－ 入学者選抜の基本方針 －

工学研究科博士前期課程の入学者選抜方法として、推薦選抜、一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜を行う。

推薦選抜は、成績が優秀で人物ともに優れ、在籍する大学の学長又は学部長等が責任をもって推薦できる者を対象とし、口述試験及び面接、書類審査の結果を総合して判定する。

一般選抜では、原則として、基礎科目、外国語科目（英語）、専門科目の試験を課し、その結果と学部での成績、口述試験及び面接の結果を併せて総合的に判定する。

外国人留学生特別選抜は、国費外国人留学生又は私費外国人留学生として入学を希望する者で、成績優秀な者について、学力検査を免除し、口述試験及び面接、書類審査の結果を総合して判定する。

社会人特別選抜では、企業等に勤務している者を、所属長からの推薦に基づき、学力検査（英語）、口述試験及び面接、書類審査の結果を総合して判定する。

Ⅱ. 共 通 事 項

1. 募集人員

専攻名	一般選抜	特別選抜		
		推薦選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
機械工学専攻	32名	約16名	若干名	若干名
電気・電子工学専攻	30名	約15名	若干名	若干名
情報・メディア工学専攻	31名	約18名	若干名	若干名
建築建設工学専攻	28名	約10名	若干名	若干名
材料開発工学専攻	24名	約12名	若干名	若干名
生物応用化学専攻	21名	約11名	若干名	若干名
物理工学専攻	18名	約7名	若干名	若干名
知能システム工学専攻	27名	約15名	若干名	若干名
繊維先端工学専攻	15名	約5名	若干名	若干名
原子力・エネルギー安全工学専攻	27名	約12名	若干名	若干名
合計	253名			

※ 推薦選抜, 社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜の募集人員は, 一般選抜の募集人員の内数となります。

2. 出願期間

推薦選抜	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
平成28年6月16日(木)~21日(火)17時必着	平成28年8月22日(月)~25日(木)17時必着		

- (1) 郵送の場合は書留郵便とし, 封筒の表面に「工学研究科博士前期課程入学願書在中」と朱書の上, 最終日の17時まで必着するよう十分配慮し送付してください。ただし, 期間後に到着した出願書類等のうち, 出願期間最終日の2日以前の発信局日付印のある書留速達郵便に限り受理します。
- (2) 持参の場合の受付時間は, 9時から17時(土・日を除く)までです。ただし, 検定料の納入は必ず所定の手続により行ってください。
- (3) 出願期間終了後に受験票及び試験室案内を送付します。選抜期日の2日前までに受験票が到着しないときは, 本学入試課にお問い合わせください。

3. 障害のある入学志願者の事前相談

本研究科入学志願者で, 疾病・負傷や身体障害のために, 受験上及び修学上の配慮を希望する者は, 出願期間開始14日前までに本学入試課へ申し出てください。

ただし, 期限後に不慮の事故等により身体に障害を有することとなった場合には, 速やかに相談してください。

4. 合格者発表

推薦選抜	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
平成28年7月13日(水)10時	平成28年9月14日(水)10時		

本学入試課掲示場（裏表紙の案内図参照）及び本学ホームページ（<http://www.u-fukui.ac.jp/>）の「受験生の方へ」内に合格者受験番号を発表するとともに、合格者あてに合格通知書を送付します。なお、電話による照会には一切応じません。

5. 入学手続等

合格者には、平成28年11月上旬に「入学手続要項」等を送付するので、その内容をよく確認して手続を行ってください。

なお、入学手続期間内に所定の入学手続を完了しなかった者は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。

(1) 入学手続期間・方法

平成28年11月14日(月)～17日(木)(最終日17時までに必着のこと)

入学手続は、郵送又は持参によるものとします。

- ① 郵送の場合は、入学手続書類等を本研究科所定の封筒に同封のうえ、書留郵便で入学手続期間内に必着するよう送付してください。入学手続期間後に到着したものは、いかなる理由があっても一切受理しないので郵便事情を考えて早めに送付してください。
- ② 持参の場合は、入学手続期間の9時～17時に本学入試課へ提出してください。

(2) 入学手続時に要する経費

- ① 入学料 282,000円（予定額）
- ② 授業料 前期分 267,900円（年額 535,800円）(予定額)

入学時及び在学中に入学料・授業料改定が行われた場合には、改定時から改定後の額が適用されます。入学料・授業料の納入方法は、合格者に送付する「入学手続要項」で通知します。

③ その他必要な経費

傷害保険及び賠償責任保険

本学では、教育研究活動中の事故を補償するために、入学時に学生全員が何らかの傷害保険及び賠償責任保険に加入することを原則としています。

下記は、大多数の国公私立大学が日本国際教育支援協会の賛助会員となり、低廉な保険料で学生に提供している保険です。

学生教育研究災害傷害保険（通学特約付）	保険料2年間分	1,400円
学研災付帯賠償責任保険	保険料2年間分	680円

(3) 入学料免除・徴収猶予と授業料免除

入学料・授業料の納入が困難な者には、入学料免除・徴収猶予、授業料免除制度があります。希望者は、合格者に送付する「入学手続要項」の入学料免除・徴収猶予、授業料免除に関する欄を熟読して、入学手続前に所定の申請をしてください。

なお、上記の経済的理由によるものの他に、現職教員、企業等に勤務している社会人にとっては、大学院入学時の成績が優秀な者に対して、入学後1年間の授業料を半額免除する制度があります。

6. 長期履修学生制度

本研究科に入学しようとする者で、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修することを希望する者は、合格者に送付する「入学手続要項」等送付時に同封する長期履修学生制度に関する通知を熟読し、入学手続前に所定の申請をしてください（外国人留学生は対象外）。

7. 安全保障輸出管理について

福井大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「福井大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受入れに際し厳格な審査を実施しています。

規則事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

【参考】「福井大学安全保障輸出管理規程」

http://kisoku.ad.u-fukui.ac.jp/regu_search/730

8. 個人情報の利用

出願書類等に記載された個人情報（成績判定に関する情報を含む）は、①入学試験の実施、②入学手続、奨学金等の制度の運用、③入学者の受入準備、④入試の改善や志願動向等の調査、⑤入学後の履修指導や教務関係事務に使用する目的をもって福井大学が管理します。この目的の範囲内で福井大学の教職員が利用する場合及び本人の同意を得た場合のほかは、次に掲げる場合を除き、原則として、他の目的で利用又は福井大学の教職員以外に提供することはありません。

- 1) 捜査機関が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供する場合
- 2) 提出された出願書類等の個人情報を電算処理する場合で、当該電算処理に係る業務を外部の業者等に行わせるために当該業者に対する個人情報の提供が必要となった場合（なお、この場合には、当該業者に対して個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の業務を契約により課すこととなります。）
- 3) 提出された出願書類等の個人情報を、当該本人の権利利益を不当に侵害する恐れがない場合で、学術研究の目的のために提供する場合

【問い合わせ先】 福井大学学務部入試課

Ⅲ. 推 薦 選 抜

学問・研究に意欲のある成績優秀な学生で、本学大学院工学研究科に入学を希望するものに対し、書類審査と口述試験及び面接による推薦選抜を実施します。

1. 出願資格

次のいずれかに該当する者で学業成績が優秀で人物ともに優れ、在籍大学等の学長又は学部長あるいは指導教員が責任を持って推薦できる者で、合格した場合には入学を確約できる者

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を平成29年3月に卒業見込みの者
- (2) 短期大学又は高等専門学校の専攻科を平成29年3月に修了見込みの者で、修了までに独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与される見込みの者

2. 志願専攻に関する事前相談等

志願専攻は、出身大学等において専攻している学科と同系列であること。

なお、同系列と判断し難い学科の場合、学業等に関することの質問がある場合は、出願前に問い合わせてください。

質問の受付及び回答は、本学入試課を通じて行いますので、次の連絡先に文書（FAX可、電話不可）又はE-mailで問い合わせてください。

質問はできるだけ具体的に記述し、志願専攻及び連絡先を必ず明記してください。

【問い合わせ先】

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課
FAX：0776-27-8010 E-mail：g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

3. 出願手続

- (1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

- (2) 出願書類等

書 類 等	摘 要
入 学 志 願 票	本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。
写真票・受験票	縦4cm×横3cmの写真（正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの）を各1枚貼付してください。
卒業（修了）見込証明書等	在籍大学の卒業見込証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 なお、 本学卒業見込者は提出不要 です。 出願資格（2）に該当する者は、修了見込証明書と学士の学位授与を申請予定である旨の短期大学長又は高等専門学校長の証明書を提出してください。
成績証明書	在籍大学の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 出願資格（2）に該当する者は、短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書の両方を提出してください。
推 薦 書	本研究科所定の用紙により在籍大学等の学長（学部長）・学校長又は指導教員等が作成し、厳封したもの。
検 定 料 振 込 受 付 証 明 書	30,000円 と本研究科所定の検定料振込依頼書を持参のうえ、最寄りの銀行等窓口で納入（郵便局、ゆうちょ銀行の場合は窓口にて口座からの振込のみ可能）し、納入時に発行される「検定料振込受付証明書」に「振込受付日付印」が押印されていることを必ず確認し、入学志願票の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。 なお、検定料は、平成28年6月1日（水）から6月21日（火）の金融機関窓口受付終了時刻までに払い込んでください。ATM、インターネット、コンビニエンスストアは使用しないでください。

返信用封筒 (受験票等送付用)	本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ってください。
あて名票 (合格・入学手続通知用)	本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。
入学願書受付票 (あて名票と同一用紙)	本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。
該 当 者	住民票 本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したものを）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。
	・機械工学専攻の志願者 上記の志願者は、TOEIC 又は TOEFL のスコア（個人用公式認定証）が必要です。できるだけ早い時期に TOEIC 又は TOEFL の受験をしておくことをおすすめします。また、出願時にはスコアのコピー提出が必要であり、選抜試験日の「口述試験及び面接」の際にはスコアの原本確認を行うので、当日必ず持参して下さい。原本確認ができない場合は、失格となる場合があります。TOEIC 又は TOEFL スコアの利用については、「Ⅶ. 学力検査等の方法」の欄も参照してください。

(3) 出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員に連絡をとってください。
- ② 出願書類は黒のインクまたはボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
 - 1) 検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2) 検定料を誤って重複して振込んだ場合
 なお、返還方法については本学入試課に問い合わせてください。
- ⑥ 出願書類等の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

4. 選抜方法等

(1) 選抜方法

各専攻で実施する、口述試験及び面接、並びに書類審査の結果を総合して行います。

(2) 学力検査等の内容

19ページ「Ⅶ. 学力検査等の方法等」の欄を参照してください。

(3) 選抜期日等

① 日時 平成28年7月1日(金)13時～

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験場案内は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

(4) 受験上の留意事項

- ① 受験者は、必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合してください。
- ② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。
- ③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

IV. 一 般 選 抜

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者又は平成29年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は平成29年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は平成29年3月31日までに取得見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (9) 平成29年3月末日において、次に掲げる事項のいずれかを満たし、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科において認めた者
 - ① 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (10) 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までに22歳に達しているもの

※ 出願資格の（9）又は（10）によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」(本研究科所定の用紙)に必要書類を取りそろえ、平成28年7月22日(金)までに本学入試課へ提出してください。

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

2. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

書類等	摘要
入学志願票	本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。
写真票・受験票	縦4cm×横3cmの写真（正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの）を各1枚貼付してください。
卒業証明書等	出身大学の卒業証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 卒業見込みの者は卒業見込証明書を提出してください。なお、 本学卒業生及び卒業見込者は提出不要 です。 出願資格（2）に該当する者は、学位証明書を提出してください。学位を取得する見込みの者は、学士の学位授与を申請予定である旨の短期大学長又は高等専門学校長の証明書を提出してください。 出願資格（6）に該当する者は、修業年限が3年以上の課程を修了することにより授与された学士の学位に相当する学位証明書を提出してください。学位を取得する見込みの者は、修業年限が3年以上の課程を修了することにより授与される学士の学位に相当する学位を取得見込みである旨の大学長又は学校長の証明書を提出してください。
成績証明書	出身大学の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 出願資格（2）に該当する者は、短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書の両方を提出してください。
検定料振込受付証明書	30,000円 と、本研究科所定の検定料振込依頼書を持参のうえ、最寄りの銀行等窓口で納入（郵便局、ゆうちょ銀行の場合は窓口にて口座からの振込のみ可能）し、納入時に発行される「検定料振込受付証明書」に「振込受付日付印」が押印されていることを必ず確認し、入学志願票の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。 なお、検定料は、平成28年8月4日（木）から25日（木）の金融機関窓口受付終了時刻までに払い込んでください。ATM、インターネット、コンビニエンスストアは使用しないでください。
返信用封筒（受験票等送付用）	本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ってください。
あて名票（合格・入学手続通知用）	本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。
入学願書受付票（あて名票と同一用紙）	本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。

該 当 者	住 民 票	本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。
	TOEIC/TOEFL 公式認定証	<p>・機械工学専攻及び原子力・エネルギー安全工学専攻の志願者</p> <p>上記の志願者は、TOEIC 又は TOEFL のスコア（個人用公式認定証）が必要です。できるだけ早い時期に TOEIC 又は TOEFL の受験をしておくことをおすすめします。また、出願時にはスコアのコピー提出が必要であり、選抜試験日の「口述試験及び面接」の際にはスコアの原本確認を行うので、当日必ず持参して下さい。原本確認ができない場合は、失格となる場合があります。TOEIC 又は TOEFL スコアの利用については、「Ⅶ. 学力検査等の方法」の欄も参照してください。</p>

注：出願資格の（9）又は（10）に該当する者は、出願資格審査で既に提出されている書類に関しては、改めて提出する必要はありません。

（3）出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員に連絡をとってください。
- ② 出願書類は黒のインクまたはボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
 - 1) 検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2) 検定料を誤って重複して振込んだ場合
 なお、返還方法については本学入試課に問い合わせてください。
- ⑥ 出願書類等の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- ⑦ 日本語または英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。
(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

3. 選抜方法等

（1）選抜方法

各専攻で実施する、学力検査、口述試験及び面接並びに書類審査の結果を総合して行います。

（2）学力検査等の時間及び内容

19ページ「Ⅶ. 学力検査の方法等」の欄を参照してください。

（3）選抜期日等

① 日 時 平成28年9月1日(木)・2日(金)

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験場案内は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

（4）受験上の留意事項

- ① 受験者は、必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合してください。
- ② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。
- ③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

V. 社会人特別選抜

1. 社会人特別選抜の概要

(1) 趣旨

「社会人特別選抜」とは、企業等に勤務している者を、所属長からの推薦に基づいて選抜する制度のことであり、推薦を行う企業等は、在職のままの修学について応諾することを前提としています。この制度は、社会に開かれた大学院教育の一環として、社会人に対して再教育の場を提供するとともに、大学と産業界との活発な交流により、新しい学問を「新しい技術」に展開・発展させることを目的として実施するものであり、大学院設置基準第14条の特例を適用した「昼夜開講制」による教育を行うこととしています。

(2) 教育方法の特例の概要

- ① 博士前期課程2年のうち、1年目は課程修了に必要な単位の大部分を昼間の授業で修得し、2年目は夜間及び土曜日、日曜日に登学し、主として修士論文作成のための研究に専念することを原則としています。ただし、専攻によっては、1年目は夜間に登学して課程修了に必要な単位を修得し、2年目は昼間に登学して修士論文作成のための研究を行うこともあるので、出願前に必ず志望専攻の専攻長に問い合わせてください。
- ② 入学に当たっては、指導教員の指導の下に2年間を見通した履修計画を提出してください。なお、勤務の都合から履修計画に変更が生じた場合は、その都度申し出て許可を得てください。
- ③ 企業等における研究も、その内容が修士論文にふさわしければ研究のテーマとして認め、また、勤務先の設備を利用した研究を認めることがあります。

2. 出願資格

各種の研究機関、教育機関又は企業等に勤務する技術者又は研究者で、入学後もその身分を有し、所属長からの推薦を受けた者で、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は平成29年3月31日までに取得見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を

満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年2月7日文部省告示第5号)

(9) 平成29年3月末日において、次に掲げる事項のいずれかを満たし、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科において認められた者

① 学校教育法(昭和23年法律第26号)第83条に定める大学に3年以上在学した者

② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者

③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者

④ 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(10) 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時まで22歳に達しているもの

※ 出願資格の(9)又は(10)によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」(本研究科所定の用紙)に必要な書類を取りそろえ、平成28年7月22日(金)までに本学入試課へ提出してください。

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

3. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

書類等	摘要
入学志願票	本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。
写真票・受験票	縦4cm×横3cmの写真(正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの)を各1枚貼付してください。
卒業証明書等	出身大学の卒業証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 出願資格(2)に該当する者は、学位証明書を提出してください。 出願資格(6)に該当する者は、修業年限が3年以上の課程を修了することにより授与された学士の学位に相当する学位証明書を提出してください。
成績証明書	出身大学の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 出願資格(2)に該当する者は、短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書の両方を提出してください。
研究計画書	本研究科所定の用紙により、入学後の研究計画について1,000字以内で記入してください。所定用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。
業務概要	現在までに携わった研究・技術職の内容を詳しく記入したもの。様式は任意です。

受験承諾書	本研究科所定の用紙により，勤務先の所属長又はこれに準ずる者が発行したもの。	
検定料振込受付証明書	30,000円 と，本研究科所定の検定料振込依頼書を持参のうえ，最寄りの銀行等窓口で納入（郵便局，ゆうちょ銀行の場合は窓口にて口座からの振込のみ可能）し，納入時に発行される「検定料振込受付証明書」に「振込受付日付印」が押印されていることを必ず確認し，入学志願票の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。 なお，検定料は，平成28年8月4日（木）から25日（木）の金融機関窓口受付終了時刻までに払い込んでください。ATM，インターネット，コンビニエンスストアは使用しないでください。	
返信用封筒（受験票等送付用）	本研究科所定の封筒に，住所・氏名・郵便番号を明記し，362円分の切手を貼ってください。	
あて名票（合格・入学手続通知用）	本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので，出願後受信場所が変更となった場合は，速やかに連絡してください。	
入学願書受付票（あて名票と同一用紙）	本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。	
推薦書（任意提出書類）	本研究科所定の用紙により，原則として出身大学等の指導教員又は勤務先の所属長が作成し，厳封したもの。	
該 当 者	業績概要	卒業論文，研究論文又は研究業績を有する者は，別刷等の業績概要を添付 してください。様式は任意です。
	住民票	本邦在留の外国人は，市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は，住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名，国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。
	TOEIC/TOEFL 公式認定証	・機械工学専攻及び原子力・エネルギー安全工学専攻の志願者 上記の志願者は，TOEIC 又は TOEFL のスコア（個人用公式認定証）が必要です。できるだけ早い時期に TOEIC 又は TOEFL の受験をしておくことをおすすめします。また，出願時にはスコアのコピー提出が必要であり，選抜試験日の「口述試験及び面接」の際にはスコアの原本確認を行うので，当日必ず持参して下さい。原本確認ができない場合は，失格となる場合があります。TOEIC 又は TOEFL スコアの利用については，「Ⅶ. 学力検査等の方法」の欄も参照してください。

注：出願資格の（9）又は（10）に該当する者は，出願資格審査で既に提出されている書類に関しては，改めて提出する必要はありません。

（3）出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は，出願前に，あらかじめ希望する指導教員に連絡をとってください。
- ② 出願書類は黒のインクまたはボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし，かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印，サインのあるものは，コピーの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は，どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は，次の場合を除き，どのような理由があっても返還しません。
 - 1）検定料を振込んだが，本研究科に出願しなかった場合
 - 2）検定料を誤って重複して振込んだ場合

なお，返還方法については本学入試課に問い合わせてください。

- ⑥ 出願書類等の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- ⑦ **日本語または英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。**
(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

4. 選抜方法等

(1) 選抜方法

各専攻で実施する、学力検査、口述試験及び面接並びに書類審査の結果を総合して行います。

(2) 学力検査等の時間及び内容

19ページ「Ⅶ. 学力検査等の方法等」の欄を参照してください。

(3) 選抜期日等

① 日 時 **平成28年9月1日(木)・2日(金)**

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験場案内は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

(4) 受験上の留意事項

① 受験者は、**必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合してください。**

② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。

③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

VI. 外国人留学生特別選抜

日本国籍を有しない者（出願時に出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）に規定する「留学」の在留資格を有する者又は入学時に「留学」を取得できる見込みの者）で、本研究科に入学を希望する成績優秀な者について、学力検査を免除した特別選抜を実施します。

なお、この特別選抜によらず、一般選抜で出願することもできます。

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者又は平成29年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は平成29年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は平成29年3月31日までに取得見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は平成29年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (9) 平成29年3月末日において、次に掲げる事項のいずれかを満たし、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科において認めた者
 - ① 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位

置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 (10) 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時までには22歳に達しているもの

※ 出願資格の(9)又は(10)によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」(本研究科所定の用紙)に必要な書類を取りそろえ、平成28年7月22日(金)までに本学入試課へ提出してください。

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

2. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

書 類 等	摘 要
入 学 志 願 票	本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。 欄外にある「外国人留学生特別選抜指導希望教員確認欄」に指導を希望する教員の確認印をもらうこと。ただし、学外等遠方からの志願者で確認印がもらえない場合は、教員の承諾を得た日を記載すること。
写 真 票 ・ 受 験 票	縦4cm×横3cmの写真(正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの)を各1枚貼付してください。
卒 業 証 明 書 等	出身大学の卒業証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 卒業見込みの者は卒業見込証明書を提出してください。なお、 本学卒業生及び卒業見込者は提出不要 です。 出願資格(2)に該当する者は、学位証明書を提出してください。学位を取得する見込みの者は、学士の学位授与を申請予定である旨の短期大学長又は高等専門学校長の証明書を提出してください。 出願資格(6)に該当する者は、修業年限が3年以上の課程を修了することにより授与された学士の学位に相当する学位証明書を提出してください。学位を取得する見込みの者は、修業年限が3年以上の課程を修了することにより授与される学士の学位に相当する学位を取得見込みである旨の大学長又は学校長の証明書を提出してください。
成 績 証 明 書	出身大学の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 出願資格(2)に該当する者は、短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書の両方を提出してください。
検 定 料 振 込 受 付 証 明 書	30,000円 と、本研究科所定の検定料振込依頼書を持参のうえ、最寄りの銀行等窓口で納入(郵便局、ゆうちょ銀行の場合は窓口にて口座からの振込のみ可能)し、納入時に発行される「検定料振込受付証明書」に「振込受付日付印」が押印されていることを必ず確認し、入学志願票の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。 なお、検定料は、平成28年8月4日(木)から25日(木)の金融機関窓口受付終了時刻までに払い込んでください。ATM、インターネット、コンビニエンスストアは使用しないでください。
返 信 用 封 筒 (受験票等送付用)	本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ってください。

あて名票 (合格・入学手続通知用)	本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。
入学願書受付票 (あて名票と同一用紙)	本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。
住 民 票	本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。

注：出願資格の（9）又は（10）に該当する者は、出願資格審査で既に提出されている書類に関しては、改めて提出する必要はありません。

（3）出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員に連絡をとってください。
- ② 出願書類は黒のインクまたはボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
 - 1) 検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2) 検定料を誤って重複して振込んだ場合
 なお、返還方法については本学入試課に問い合わせてください。
- ⑥ 出願書類等の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- ⑦ 日本語または英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。
(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

3. 選抜方法等

（1）選抜方法

各専攻で実施する、口述試験及び面接並びに書類審査の結果を総合して行います。

（2）学力検査等の時間及び内容

19ページ「Ⅶ. 学力検査の方法等」の欄を参照してください。

（3）選抜期日等

① 日 時 平成28年9月1日(木)・2日(金)

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験場案内は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

（4）受験上の留意事項

- ① 受験者は、必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合してください。
- ② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。
- ③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

Ⅶ. 学力検査等の方法

【機械工学専攻】

選抜区分	7月1日(金)		9月1日(木)				9月2日(金)
	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接	口述試験 及び面接
推薦	※	13:00～	—	—	—	—	—
一般	—	—	9:00～10:30	13:00～16:00	※	—	9:00～
社会人	—	—	—	—	※	—	9:00～
外国人	—	—	—	—	—	—	9:00～

学力検査等の内容	
基礎科目	数学 線形代数, 微分積分, 常微分方程式 (90分)
専門科目	材料力学, 流れ学, 熱力学, 機械力学・制御工学 [関数電卓は持参不可。貸与する関数電卓を使用すること。] (180分)
※ 外国語科目 (英語)	当日は, 外国語科目(英語)の試験は行いません。TOEIC又はTOEFLのスコアで評価します。 出願時にはスコア(個人用公式認定証)のコピー提出が必要で, 選抜試験日(口述試験及び面接の前)にスコアの原本確認を行うので, 必ず持参すること。確認が行えない場合は, 失格となる ことがあります。 スコアの有効期限等: 公式認定証は2014年9月1日以降発行のものであること。また, TOEIC-IP (カレッジTOEIC), TOEIC SW, TOEIC Bridge, TOEFL ITPのスコアは認めません。
口述試験 及び面接	機械工学に関する事項および卒業研究等の内容, 博士前期課程で行う予定の研究内容について質 疑を行う。

【電気・電子工学専攻】

選抜区分	7月1日(金)	9月1日(木)			
	口述試験 及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	9:00～10:30 数学 10:45～12:15 物理	—	13:15～14:15	15:30～
社会人	—	—	—	13:15～14:15	15:30～
外国人	—	—	—	—	15:30～

学力検査等の内容	
基礎科目	数学 線形代数, 微分方程式, 複素関数論, 確率・統計から各1問, 合計4問出題し, 3問を選択解答 (90分) 物理 力学, 電磁気学, 電気回路, 電子回路から各1問, 合計4問出題し, 3問を選択解答 (90分)
外国語科目 (英語)	英語 (60分)
口述試験 及び面接	出願書類に基づく面接を行い, 工学系の学部レベルの基礎学力に関する質疑を行う。

【情報・メディア工学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目(英語)	口述試験及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	—	9:00～11:20	—	13:30～
社会人	—	—	—	9:00～10:30	13:30～
外国人	—	—	—	—	13:30～

学力検査等の内容	
専門科目	<p>【必須科目】 数学（微分積分学，線形代数学）</p> <p>【選択科目】 4題中2題を選択解答。 離散数学，データ構造とアルゴリズム，フーリエ解析，論理回路</p> <p style="text-align: right;">(140分)</p>
外国語科目(英語)	英語 <p style="text-align: right;">(90分)</p>
口述試験及び面接	面接を行う（口述試験を含む）。

【建築建設工学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目(英語)	口述試験及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	—	9:00～12:00	13:00～14:30	15:00～
社会人	—	—	—	13:00～14:30	15:00～
外国人	—	—	—	—	15:00～

学力検査等の内容														
専門科目	<p>下記①から④までの4科目から，2科目を選択して解答する。ただし，指導希望教員の専門分野の1科目は必ず選択しなければならない。試験科目と専門分野として対応する教員名は下表とする。</p> <p>①建築構造工学（建築構造，構造力学） ②環境防災工学（地盤工学，地震工学，水理学，材料学，建設構造工学） ③建築設計（建築計画，建築歴史意匠，建築環境工学） ④地域都市計画（都市計画，交通計画）</p> <p>【関数電卓持参可。ただし，携帯電話を電卓として使用することは不可。】 (180分)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>試験科目</th> <th>専門分野として対応する教員名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">環境構造工学講座</td> <td>①建築構造工学</td> <td>石川浩一郎，磯 雅人</td> </tr> <tr> <td>②環境防災工学</td> <td>小嶋啓介，小林泰三，鈴木啓悟</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">都市建築設計講座</td> <td>③建築設計</td> <td>明石行生，松下 聡，原田陽子</td> </tr> <tr> <td>④地域都市計画</td> <td>川上洋司，野嶋慎二，川本義海，菊地吉信</td> </tr> </tbody> </table>	講座名	試験科目	専門分野として対応する教員名	環境構造工学講座	①建築構造工学	石川浩一郎，磯 雅人	②環境防災工学	小嶋啓介，小林泰三，鈴木啓悟	都市建築設計講座	③建築設計	明石行生，松下 聡，原田陽子	④地域都市計画	川上洋司，野嶋慎二，川本義海，菊地吉信
講座名	試験科目	専門分野として対応する教員名												
環境構造工学講座	①建築構造工学	石川浩一郎，磯 雅人												
	②環境防災工学	小嶋啓介，小林泰三，鈴木啓悟												
都市建築設計講座	③建築設計	明石行生，松下 聡，原田陽子												
	④地域都市計画	川上洋司，野嶋慎二，川本義海，菊地吉信												
外国語科目(英語)	英語 <p style="text-align: right;">(90分)</p>													
口述試験及び面接	学力検査に現れない建築建設工学関連分野における基礎知識および研究を遂行していく上での基本的能力を口頭試問する。また，地域や環境に対する建築建設工学技術者の役割に対する理解と勉学に対する熱意・意欲を口頭試問する。													

【材料開発工学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験 及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	—	9:00～12:00	13:30～15:00	15:30～
社会人	—	—	—	13:30～15:00	15:30～
外国人	—	—	—	—	15:30～

学力検査等の内容	
専門科目	力学, 熱力学, 有機化学, 無機化学 以上4科目の中から3科目を選択解答 (180分)
外国語科目 (英語)	英語 (90分)
口述試験 及び面接	研究内容及び基礎学力を確認するための口述試験を行う。

【生物応用化学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験 及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	—	9:00～10:30	11:00～12:30	14:00～
社会人	—	—	—	11:00～12:30	14:00～
外国人	—	—	—	—	14:00～

学力検査等の内容	
専門科目	生物化学 (タンパク質, 遺伝子, 代謝) 有機化学 (反応, 合成, 構造) 物理化学 (反応速度論及び量子論の基礎, 化学熱力学, 化学平衡) 以上3科目の中から6問 (各科目2問) 出題し, 2問を選択解答 (90分)
外国語科目 (英語)	英語 (90分)
口述試験 及び面接	卒業研究の背景や方法, 進捗状況, および大学院入学後の研究計画について, 資料を使わずにプレゼンテーションを行う。

【物理工学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験 及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	9:00～10:00	10:15～11:15	11:30～12:30	14:30～
社会人	—	—	—	11:30～12:30	14:30～
外国人	—	—	—	—	14:30～

学力検査等の内容	
基礎科目	数学 線形代数, 微分積分, ベクトル解析, 常微分方程式 以上から2題出題 (60分)
専門科目	力学, 電磁気学, 熱統計力学, 量子力学 以上から2題出題 (60分)
外国語科目 (英語)	英語 (60分)
口述試験 及び面接	出願書類に基づく面接を行い, 工学系の基礎学力に関する質疑を行う。

【知能システム工学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験 及び面接	外国語科目 (英語)	基礎科目	専門科目	口述試験 及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	9:00～10:00	10:30～12:00 数学・物理	—	13:00～
社会人	—	9:00～10:00	—	—	13:00～
外国人	—	—	—	—	13:00～

学力検査等の内容	
外国語科目 (英語)	英語 (60分)
基礎科目	数学, 物理 (90分)
口述試験 及び面接	博士前期課程及び知能システム工学専攻のアドミッション・ポリシーに対する適合度を見る質疑 応答, 及び面接(口述試験を含む)を行う。

【繊維先端工学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験 及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	—	—	9:00～10:30	13:30～
社会人	—	—	—	9:00～10:30	13:30～
外国人	—	—	—	—	13:30～

学力検査等の内容	
外国語科目 (英語)	英語 (90分)
口述試験 及び面接	出願書類に基づき志望動機や将来展望などについて面接を行い、卒業研究の背景や方法、進捗状況および今後の研究計画について質疑を行う。

【原子力・エネルギー安全工学専攻】

	7月1日(金)	9月1日(木)			
選抜区分	口述試験 及び面接	基礎科目	専門科目	外国語科目 (英語)	口述試験 及び面接
推薦	13:00～	—	—	—	—
一般	—	10:30～12:00	—	※	13:00～
社会人	—	—	—	※	13:00～
外国人	—	—	—	—	13:00～

学力検査等の内容	
基礎科目	数学 微分積分，微分方程式，確率・統計，線形代数の範囲から2問出題 小論文 1問 計3問を出題 (90分)
※ 外国語科目 (英語)	当日は，外国語科目（英語）の試験は行いません。TOEIC又はTOEFLのスコアで評価します。出願時にはスコア（個人用公式認定証）のコピー提出が必要で，選抜試験日（口述試験及び面接の前）にスコアの原本確認を行うので，必ず持参すること。確認が行えない場合は，失格となることがあります。 スコアの有効期限等：公式認定証は2014年9月1日以降発行のものであること。また，TOEIC-IP（カレッジ TOEIC），TOEIC SW，TOEIC Bridge，TOEFL ITPのスコアは認めません。
口述試験 及び面接	入学後の研究計画に関するプレゼンテーション（3分），ならびにその内容と当該研究分野の専門知識に関する口頭試問とする。

Ⅷ. 工学研究科博士前期課程案内

1. 各専攻の授業科目及び指導教員

区 分	授 業 科 目
工 学 研 究 科 共 通	応用数理特論, 解析学通論, 代数学通論, 幾何学通論, 生命複合科学特論 I, 同 II, 情報システム特論, コンピュータシミュレーション, 経営学概論, 技術経営のすすめ, 技術系のマネジメント基礎, 量子エネルギー応用論, 大学院海外短期インターンシップ I, 同 II, 工業日本語特論 I, 同 II
ライフサイエンスイノベーションセンター	生命複合科学特論 I, 同 II, 生命複合科学特別演習及び実験 I, 同 II, 同 III, 同 IV, 同 V A, 同 V B, 同 VI A, 同 VI B, 同 VII, 同 VIII, 同 IX, 同 X, 生命複合科学創成演習 I, 同 II, 生命複合科学特別実験 I, 同 II, 映像情報符号化特論, 神経情報処理論, 複雑システム論, 生物情報学, 非線形システム論, バイオメカニクス, 高分子科学特論, 生体システム特論, 計算科学特論, バイオナノテクノロジー, ホルモン作用学特論, 分子細胞情報学特論, 分子生物学特論, 神経科学特論, 脳神経構造学

専攻	授 業 科 目	指 導 教 員 名
機械工学専攻	科学英語コミュニケーション I, 同 II, 科学英語表現 I, 同 II, 科学英語特別講義, CAE 基礎, 機械工学特別演習及び実験 I, 同 II, 機械工学特別講義, 長期インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 計算機援用成形加工, 計算機援用構造設計, 機械材料プロセス論, 環境材料強度学, 破壊力学, 微小機械要素設計, 機械加工学特論, 計算機援用流体力学, 燃焼理論, 応用熱システム, エネルギー輸送, 安全安心の熱流体工学, 計算機援用制御系設計, 計算機援用構造動解析, 振動解析学, ロボット工学, 機械システム工学	機能創成工学講座 大津雅亮, 竹下晋正, 本田知己, 岡田将人 熱流体システム講座 太田淳一, 永井二郎, 太田貴士, 田中太, 酒井康行 システム制御工学講座 鞍谷文保, 山田泰弘, 川井昌之, 川谷亮治, 新谷真功
電気・電子工学専攻	電子物性特論, エネルギー工学特論, システム工学特論, 計算機工学特論, 信号処理特論, 科学英語コミュニケーション I, 同 II, 科学英語表現, 科学英語特別講義, 電気・電子工学特別講義第一, 同第二, 電気・電子工学特別演習及び実験 I, 同 II, 電気・電子工学 PBL, 長期インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 半導体デバイス, 半導体プロセス工学, 非線形光学, 固体電子物性, 光情報デバイス工学, 電力システム, 電気エネルギー基礎論, パワーエレクトロニクス特論, 情報通信工学特論, 回路・システム論, システム制御論	電子物性講座 葛原正明, 福井一俊, 川戸栄, 塩島謙次, 山本晃司 エネルギー工学講座 田岡久雄, 橋本明弘, 牧野哲征, 高野浩貴 システム工学講座 小原敦美, 廣瀬勝一, 王栄龍, 坂口文則, 茂呂征一郎
情報・メディア工学専攻	情報・メディア工学特別講義第 1, 同第 2, 同第 3, 同第 4, 情報・メディア工学特別演習及び実験 I, 同 II, 科学英語コミュニケーション I, 同 II, 科学英語表現 I, 同 II, 長期インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 計算機組織論, 量子コンピューティング, 計算量理論, 形式手法入門, デジタル移動通信特論, 情報信号処理工学特論, 情報通信論, 通信ネットワークデザイン・信頼性特論, 聴覚情報処理, データベース論, 線形計算特論, 映像情報符号化特論, 三次元情報処理特論	情報・メディア工学講座 藤元美俊, 細田陽介, 森眞一郎, 山上智幸, 山田徳史, 吉田俊之, 岩田賢一, 橋拓至, 東海彰吾, 樋口健, 福間慎治, 森幹男, 石井大輔
建築建設工学専攻	建築建設工学特別演習及び実験 I A, 同 I B, 同 II A, 同 II B, 科学英語コミュニケーション I, 同 II, 科学英語表現 I, 同 II, 長期インターンシップ, 建築インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 建築構造力学特論, 建築構造設計学, 建築構造動力学, 地盤解析学, 土木構造特論, 地震工学特論, 構造材料学, 建築都市設計論, 建築環境工学特論 1, 同 2, 建築都市計画特論, 交通論, 国土・地域計画特論, 都市論, 都市計画特論	環境構造工学講座 石川浩一郎, 小嶋啓介, 磯雅人, 小林泰三 都市建築設計講座 明石行生, 川上洋司, 野嶋慎二, 松下聡, 菊地吉信, 原田陽子
材料開発工学専攻	材料開発工学特別講義, 材料開発工学特別演習及び実験 I, 同 II, 科学英語コミュニケーション I, 同 II, 科学英語表現, 科学英語特別講義, 材料開発工学 PBL, 長期インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 重合反応論, 電池特論, 無機材料工学特論, 高分子設計論, 環境化学分析, 有機化学特論 I, 同 II, 分子相互作用特論, ポリマーアロイの化学, 高分子分子論, インテリジェント材料, 化学工学特論, 高分子生産プロセス工学, 繊維・高分子材料レオロジー特論, 繊維・高分子加工工学, 材料力性, 繊維・高分子材料工学	エネルギー・物質変換化学講座 橋本保, 米沢晋, 内村智博, 阪口壽一, 徳永雄次, 川崎常臣, 金在虎 インテリジェント材料講座 佐々木隆, 瀬和則, 田中稷 生産加工プロセス講座 飛田英孝, 鈴木清

専攻	授 業 科 目	指 導 教 員 名
生物応用化学専攻	生物応用化学特別講義, 生物応用化学特別演習及び実験Ⅰ, 同Ⅱ, 科学英語コミュニケーションⅠ, 同Ⅱ, 科学英語表現, 科学英語特別講義, 生物応用化学PBL, 長期インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 有機化学特論, 有機化学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 高分子化学特論, 高分子化学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 分子機能化学特論, 物理化学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 界面コロイド化学, カラーレーション工学, 繊維科学概論, 分析化学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 分子生物学特論, 分子生物学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 生命機能工学特論, 生命機能工学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 生物工学特論, 生物反応工学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 細胞工学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 生体材料化学	生物応用化学講座 内田博之, 櫻井明彦, 前田史郎, 前田寧, 沖昌也, 里村武範, 杉原伸治, 高橋一朗, 高橋透, 寺田聡, 吉見泰治
物理工学専攻	量子統計力学特論, 計算科学特論, 量子多体論, 物理数学特論, 相対論特論, 物性物理学特論, 物理工学特別演習及び実験Ⅰ, 同Ⅱ, 物理工学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 同Ⅲ, 同Ⅳ, 科学英語コミュニケーションⅠ, 同Ⅱ, 科学英語表現Ⅰ, 同Ⅱ, 科学英語特別講義, 物理工学PBL, 長期インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 数理・量子特別講義, 数理解析特論, 宇宙論, 超流動・超伝導, 素粒子物理学, 物性・電磁物理特別講義Ⅰ, 同Ⅱ, 磁性物理学, 極限環境物性学, 量子光学Ⅰ, 同Ⅱ, 粒子線計測学, 電磁波工学, プラズマ物理学Ⅰ, 同Ⅱ, 低温工学, 電波物性, 核磁気共鳴特論, レーザー工学, 光計測工学, 遠赤外工学Ⅰ, 同Ⅱ, 分子科学特別講義, 分子分光学特論, 液体物理概論, 界面熱力学, 分子熱力学	数理・量子科学講座 小野田信春, 高木丈夫, 橋本貴明, 堀邊稔, 保倉理美, 古閑義之, 芹生正史, 田嶋直樹 物性・電磁物理講座 菊池彦光, 吉田拓生, 斉藤輝雄, 小川勇, 光藤誠太郎, 谷正彦, 熊倉光孝, 立松芳典, 藤井裕, 浅野貴行 分子科学講座 葛生伸, 古石貴裕, 玉井良則, 陳競鷲, 西海豊彦
知能システム工学専攻	知能システム特別講義一, 同二, 同三, 科学英語コミュニケーションⅠ, 同Ⅱ, 科学英語表現Ⅰ, 同Ⅱ, 知能システム工学特別演習及び実験Ⅰ, 同Ⅱ, 長期インターンシップ, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 神経情報処理論, 複雑システム論, 生物情報学, 非線形システム論, 知能創成ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 人間運動学習システム論, 脳神経構造学, 脳情報学, バイオメカニクス, 高分子科学特論, 移動知能論, 機械学習特論, 最適運動計画特論, 知能情報工学論, デジタル制御論, 知的インターフェース論, 画像計測特論, 未来システム創成ゼミナールⅠ, 同Ⅱ	知能創成講座 平田隆幸, 村瀬一之, 黒岩丈介, 小西慶幸, 高田宗樹 未来システム創造講座 浪花智英, 藤垣元治, 小越康宏, 庄司英一, 高橋泰岳, 田中完爾, 長宗高樹
繊維先端工学専攻	繊維科学概論, 繊維先端工学特別講義Ⅰ, 同Ⅱ, 科学英語コミュニケーションⅠ, 同Ⅱ, 科学英語表現Ⅰ, 同Ⅱ, 長期インターンシップ, 繊維先端工学創成演習, 繊維先端工学PBL, 繊維先端工学特別実験, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 材料力性, 繊維・高分子材料工学, 繊維材料科学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 繊維・高分子加工工学, 繊維・高分子材料レオロジー特論, 繊維・成形加工ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 分子相互作用特論, テキスタイル工学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 界面コロイド化学, カラーレーション工学, 繊維機能科学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 生命機能工学, 生体材料化学, バイオミメティック工学ゼミナールⅠ, 同Ⅱ, 繊維産業工学	繊維先端工学講座 末信一朗, 田上秀一, 中根幸治, 久田研次, 入江聡, 廣垣和正, 藤田聡 繊維産業工学講座 (連携講座)
原子力・エネルギー安全工学専攻	原子力工学概論, 原子力防災・危機管理, エネルギー変換工学, 安全工学, 原子力・エネルギー法規, 原子核工学概論, 核燃料サイクル工学, 原子炉工学実験, 核燃料サイクル実習, 原子力の安全性と地域共生, 環境と人間活動, 原子力・エネルギー安全工学特別講義第1, 同第2, 計算機科学, 原子力基礎科学, 原子力基礎実験, 原子力応用実験, 科学英語コミュニケーションA, 同B, 科学英語表現A, 同B, 科学英語PBL1, 同PBL2, 原子力・エネルギー安全創成演習, 原子力・エネルギー安全特別実験, 長期インターンシップ, 原子力工学PBL1, 同PBL2, エネルギー安全工学PBL1, 同PBL2, PBL H-I (Project Based Learning H-I), PBL H-II (Project Based Learning H-II), PBL W (Project Based Learning W), 原子核物理・原子核反応, 原子炉物理学, 原子炉制御工学, 次世代炉システム, 原子力材料学, 核燃料工学, 冷却材環境工学, 放射線物理学・放射線化学, 放射線生物学, 放射線防護・遮蔽学, 原子力・地震防災工学, 廃止措置工学, 熱水力安全工学, 構造健全性評価工学, 構造解析学, 構造強度実験, 量子反応工学, 量子計測工学, 生体情報安全工学, 地域防災システム, 共生基盤計画論, 放射線計測学, ヒューマンインターフェース論	エネルギー安全工学講座 飯井俊行, 金邊忠, 仁木秀明, 玉川洋一, 小高知宏, 桑水流理, 川本義海, 小川泉, 浅井竜哉, 鈴木啓悟, 川崎大介 原子力工学講座 有田裕二, 泉佳伸, 宇埜正美, 福元謙一, 安田仲宏, 渡辺正, 大堀道弘, VanRooijen 原子力発電安全工学講座 (連携講座) プラントシステム安全工学講座 (連携講座)

注：授業科目及び指導教員は予定であり、今後変更の可能性もあります。

Global Engineering Program for International Students (GEPIS)

「国際総合工学特別コースカリキュラム」(GEPIS カリキュラム)

本入試に合格した者は、通常の博士前期課程カリキュラムで学ぶことも、講義・演習・研究発表等を英語で行う GEPIS のカリキュラムで学ぶこともできます。(どちらか一方を選択します。なお、GEPIS のカリキュラムには、別途 GEPIS 専用の選抜で入学した外国人留学生が参加します。)

なお、GEPIS カリキュラムでは、所属専攻が提供している科目を中心に履修を行います。GEPIS カリキュラムの履修を希望する者は、合格後に指導希望教員に申し出てください。(指導希望教員の推薦と所属専攻の承認が必要となります)

Curriculum is subject to change.

カリキュラムについては変更になる場合があります。

Field 1. Physical Engineering, Mechanical Engineering, and Architecture and Civil Engineering	
第1系： 物理工学，機械工学，建築建設工学分野	
Department of Physical Engineering	
Advanced Mathematical Physics	物理数学特論
Physics of Magnetism	固体物理学
Cryogenic of Magnetism	低温工学
Application of Spectroscopy on Condensed Matter	分子分光光学特論
Physical Chemistry of Surfaces	界面物理化学
Measurement Techniques at Interface	界面の測定法実践
Advanced Applied Physics I	物理工学特論 I
Advanced Applied Physics II	物理工学特論 II
Department of Mechanical Engineering	
Strength of Materials	材料力学及び強度
Fluid Engineering	流体工学
Control, Systems Engineering and Mechatronics	制御工学, システム工学及びメカトロニクス
Engineering Material and Design	材料及び設計工学
Thermal and Energy Engineering	熱及びエネルギー工学
Dynamics in Engineering	機械力学
Advanced Mechanical Engineering I	機械工学特論 I
Advanced Mechanical Engineering II	機械工学特論 II
Department of Architecture and Civil Engineering	
Environmental Engineering in Architecture, Adv.	建築環境工学特論
National & Regional Planning, Adv.	国土・地域計画特論
Town and Community Planning, Adv.	都市論
Advanced Soil Mechanics	土質力学特論
Architectural Design, Planning, and History, Adv.	建築設計・計画・歴史特論
Building Structural Planning and Design	建築構造設計学
Building Materials Adv.	構造材料学
Urban Design	都市デザイン
Environmental Hydraulics	環境水理学
Advanced Architecture and Civil Engineering I	建築建設工学特論 I
Advanced Architecture and Civil Engineering II	建築建設工学特論 II
Long-term Internship	長期インターンシップ
Project Based Learning H-I (PBL H-I)	PBL H-I
Project Based Learning H-II (PBL H-II)	PBL H-II
Project Based Learning W (PBL W)	PBL W

Japanese Language Courses	日本語関係科目
Japanese I	日本語 I
Japanese II	日本語 II
Japanese III	日本語 III
Japanese IV	日本語 IV
Field 2. Electrical and Electronics Engineering, Information Science, and Human and Artificial Intelligent Systems	
第2系： 電気・電子工学，情報・メディア工学，知能システム工学分野	
Department of Electrical and Electronics Engineering	
Advanced System Science	システム工学特論
Solid State Physics, Adv.	電子物性特論
Optical Information Device Technology	光情報デバイス工学
Semiconductor Process Technology	半導体プロセス工学
Power System Engineering	電力システム
Advanced Engineering for Electric Energy	電気エネルギー基礎論
Advanced Course on Power Electronics	パワーエレクトロニクス特論
Advanced Electrical and Electronic Engineering I	電気・電子工学特論 I
Advanced Electrical and Electronic Engineering II	電気・電子工学特論 II
Department of Information Science	
Image Processing, Adv.	画像処理特論
Signal Processing and Filters, Adv.	信号処理とフィルター特論
System Program, Adv.	システムプログラム特論
Numerical Linear Computation, Adv.	数値線形計算特論
Information Theory, Adv.	情報理論特論
Quantum Mechanics, quantum computation and quantum cryptography, Adv.	量子力学と量子計算・量子暗号特論
Mathematics in Communications, Adv.	通信における数学特論
Advanced Information Science I	情報メディア工学特論 I
Advanced Information Science II	情報メディア工学特論 II
Department of Human and Artificial Intelligent Systems	
Biomechanics	バイオメカニクス
Robot Learning	ロボット学習
Human Visuomotor Learning System	人間視覚運動学習システム論
Signal Analysis	信号解析
Brain Informatics	脳情報学
Special Lectures on Polymer Science	高分子科学特論
Structure of Nervous System	脳神経構造学
Intelligent Interface	知的インタフェース論
Advanced Image Sensing and Measurement	画像計測特論
Mobile Robotics	移動知能論
Neuroscience	神経科学
Advanced Human and Artificial Intelligent Systems I	知能システム工学特論 I
Advanced Human and Artificial Intelligent Systems II	知能システム工学特論 II
Long-term Internship	長期インターンシップ
Project Based Learning H-I (PBL H-I)	PBL H-I
Project Based Learning H-II (PBL H-II)	PBL H-II
Project Based Learning W (PBL W)	PBL W
Japanese Language Courses	
Japanese I	日本語 I
Japanese II	日本語 II
Japanese III	日本語 III
Japanese IV	日本語 IV

Field 3. Materials Science and Engineering, Applied Chemistry and Biotechnology, and Frontier Fiber Technology and Science 第3系： 材料開発工学，生物応用化学，繊維先端工学分野	
Department of Materials Science and Engineering	
Applied Analytical Chemistry	応用分析化学
Thermal and Mechanical Properties of Polymer	高分子の力学的性質
Polymer Synthesis I	高分子合成 I
Polymer Synthesis II	高分子合成 II
Organic Chemistry Adv. II	有機化学特論 II
Advanced Materials Science and Engineering I	材料開発工学特論 I
Advanced Materials Science and Engineering II	材料開発工学特論 II
Department of Applied Chemistry and Biotechnology	
Organic Chemistry I, Adv.	有機化学特論 I
Polymer Science	高分子科学
Molecular Biology	分子生物学
Bioengineering, Adv.	生物工学特論
Seminar for Applied Chemistry and Biotechnology	ゼミナール
Project Based Learning for Applied Chemistry and Biotechnology	PBL
Advanced Applied Chemistry and Biotechnology I	生物応用化学特論 I
Advanced Applied Chemistry and Biotechnology II	生物応用化学特論 II
Department of Frontier Fiber Technology and Science	
Mechanical Properties of Fibers	繊維材料力学
Biological Engineering	生命機能工学
Fiber・Polymer Processing	繊維・高分子加工工学
Fiber・Polymer Materials Engineering	繊維・高分子材料工学
Colloid and Surface Chemistry	界面コロイド化学
Frontier Fiber Science Seminar	繊維先端工学ゼミナール
Introduction of Fiber Industry	日本の繊維産業
Advanced Frontier Fiber Technology and Science I	繊維先端工学特論 I
Advanced Frontier Fiber Technology and Science II	繊維先端工学特論 II
Long-term Internship	長期インターンシップ
Project Based Learning H-I (PBL H-I)	PBL H-I
Project Based Learning H-II (PBL H-II)	PBL H-II
Project Based Learning W (PBL W)	PBL W
Japanese Language Course 日本語関係科目	
Japanese I	日本語 I
Japanese II	日本語 II
Japanese III	日本語 III
Japanese IV	日本語 IV
Field 4. Nuclear Power and Energy Safety Engineering (in collaboration with the Research Institute of Nuclear Engineering) 第4系： 原子力・エネルギー安全工学分野（附属国際原子力工学研究所との共同）	
Nuclear Engineering I	原子力工学 I
Nuclear Engineering II	原子力工学 II
Nuclear Engineering III	原子力工学 III
Nuclear Engineering IV	原子力工学 IV

Energy Safety and Symbiosis Engineering I	エネルギー安全工学Ⅰ
Energy Safety and Symbiosis Engineering II	エネルギー安全工学Ⅱ
Energy Safety and Symbiosis Engineering III	エネルギー安全工学Ⅲ
Energy Safety and Symbiosis Engineering IV	エネルギー安全工学Ⅳ
Advanced Nuclear Power and Energy Safety Engineering I	原子力・エネルギー安全工学特論Ⅰ
Advanced Nuclear Power and Energy Safety Engineering II	原子力・エネルギー安全工学特論Ⅱ
Long-term Internship	長期インターンシップ
Project Based Learning H-I (PBL H-I)	PBL H-I
Project Based Learning H-II (PBL H-II)	PBL H-II
Project Based Learning W (PBL W)	PBL W
Japanese Language Courses	日本語関係科目
Japanese I	日本語Ⅰ
Japanese II	日本語Ⅱ
Japanese III	日本語Ⅲ
Japanese IV	日本語Ⅳ

2. 繊維先端工学専攻の分野及び想定される受験者の出身学科の例

分 野	教育研究分野	教育研究分野の概要	想定される出身学科の例
繊維先端工学	繊維材料科学	高機能・高性能繊維の創製および繊維素材と他の各種素材との複合化による新材料の開発に関する教育研究を行う。	材料 高分子 応用化学
	繊維機能科学	繊維素材の機能化を目的に、繊維の組織構造を念頭におきながら化学的及び物理的手法による加工、さらには繊維の機能化に貢献するナノ組織構造の構築と機能評価に関する教育・研究を行う。	応用化学 高分子 物理化学 物質工学 材料
	繊維・成形加工	繊維を配列して糸・布・構造物を集合させたり、繊維が混合した材料を形にする成形加工プロセスとこのプロセスで用いられる成形加工機械に関する教育研究を行う。	材料 高分子 化学工学 機械
	バイオミメティック工学	生体を構成するファイバー（DNA、酵素、糖鎖、たんぱく質繊維など）の化学・物理に学び、再生医療材料や環境調和材料、バイオ素子など、生体ファイバーを活用した次世代材料の創出と活用を目指した教育・研究をすすめる。	生物工学 材料 化学 高分子
	テキスタイル工学	繊維及びその二次元的構造体、薄膜などの微細構造の解析とその制御、構造とミクロ的・マクロ的な物性との相関についての研究を行う。	材料 化学 高分子

3. 原子力・エネルギー安全工学専攻の分野及び想定される受験者の出身学科の例


原子力工学分野は、主として敦賀キャンパスになります。

教育研究分野	教育研究分野の概要	想定される出身学科の例
原子力工学	<p>原子力発電のための基礎基盤技術である炉物理，炉工学，放射線，核燃料，原子炉材料などの分野および廃炉措置について教育・研究を行い，既存の軽水炉の安全性，経済性向上や，高速増殖炉等の新型炉の開発を目指す。このような低炭素社会実現に向けた原子力に関する世界最先端の研究・教育に，放射線の医学利用や原子力防災工学など分野を加え，福井県の施設を利用する研究開発と地域社会に貢献しうる成果を目指す。</p>	<p>原子力 量子 エネルギー 機械 電気・電子 金属 材料 物理 放射線科学 建築建設 土木 環境 その他工学一般</p>
エネルギー安全工学	<p>プラントの安全機能維持確保や適切な時期に補修を行うための基盤技術づくりを目指したプラント安全工学，放射線の発生や計測及びモニタリングと光技術やレーザーの応用技術を追究する量子ビーム応用工学，さらに，地域防災や共生型地域形成を目指す地域共生工学などについての教育研究を行います。</p>	<p>原子力 量子 機械 金属 材料 物理 電気・電子 生物 科学 建築建設 土木 環境 情報・メディア 知能システム</p>

IV. 学生募集要項等の請求方法

1. テレメールによる請求方法

(1) 福井大学ホームページ（パソコン）からの請求方法

本学ホームページ（<http://www.u-fukui.ac.jp/>）「受験生の方へ」内の「入試資料の請求方法」から  テレメールにアクセスしてください。

※本学ホームページ内の「受験生の方へ」内で大学の概要や入試情報等も紹介しています。

(2) テレメールホームページ（パソコン・携帯電話・スマートフォン）または自動音声応答電話による請求方法

①下記のいずれかの方法で  テレメールにアクセスしてください。

インターネット （パソコン・携帯電話・スマートフォン）	http://telemail.jp	 携帯電話・スマートフォンなら、QRコードを読み取るだけでアクセスできます。
自動音声応答電話	IP電話 050-8601-0101 （24時間受付） ※一般電話回線からの通話料金は、日本全国どこからでも3分毎に約11円です。 ※住所・氏名等登録時は、ゆっくり・はっきりと話してください。 登録された音声不鮮明な場合は、電話で住所・名前を確認することがありますので、電話番号は必ず登録してください。	

②請求を希望する資料請求番号（6桁）を入力してください。

資 料 名	資料請求番号
工学研究科（博士前期課程）募集要項	5 8 3 4 4 2
工学研究科案内（博士前期課程）	5 6 3 4 2 2

③ガイダンスに従って申し込んでください。

・請求してから2～3日後に資料が届きます。

受付時間や地域、配達事情によっては、到着までに4日以上かかる場合もあります。

・送料は資料に同封されている支払方法に従い、表示料金を支払ってください。

（支払いに際して手数料が別途必要になります。）

・  テレメールでの請求についての問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102（9：30～18：00）

2. 大学への請求方法（できるだけ テレメールで請求してください。）

「博士前期課程募集要項請求」と明記し、送付先（請求者）の郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、本学入試課へメールまたはFAXにより申し込んでください。

ゆうメールの着払いで送付します。

E-mail：g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

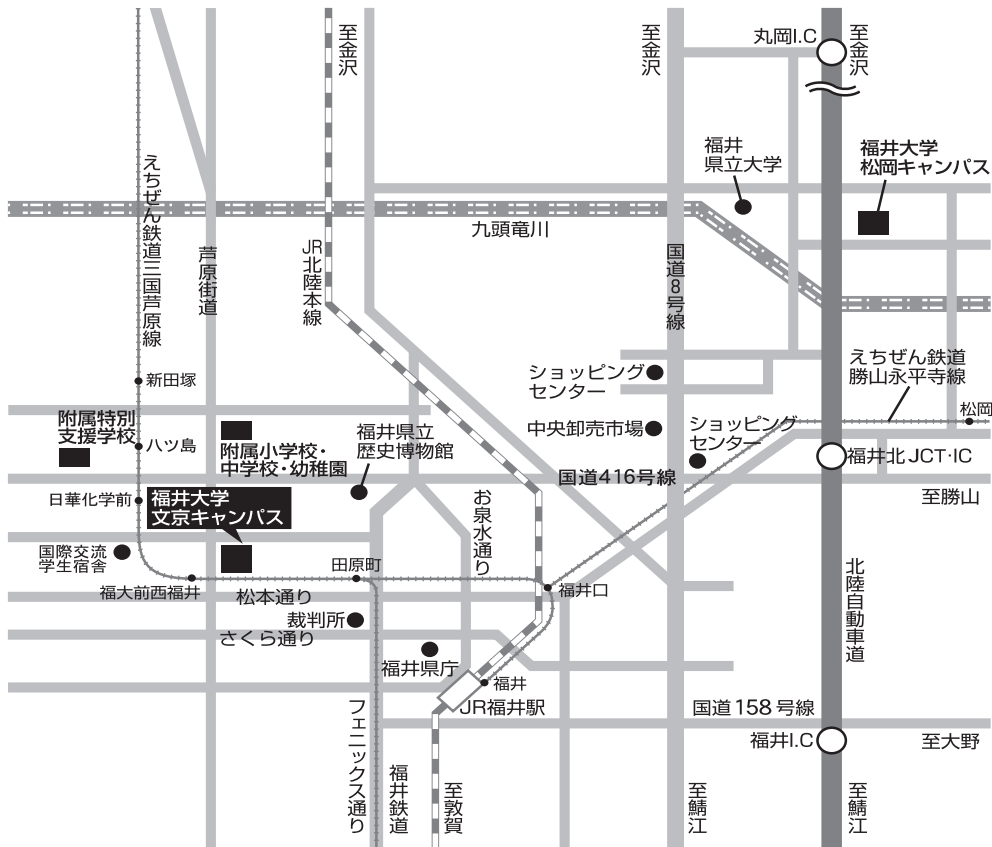
FAX：0776-27-8010

3. 窓口での請求方法

本学窓口で配付します。（祝日を除く月～金曜日の9：00～17：00）

文京キャンパス：福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

福井大学文京キャンパス位置図



文京キャンパスへの経路

- バス J R 福井駅-(約10分)-福井大学前下車
[J R 福井駅西口から出て市内バス乗り場2番から]
<http://bus.keifuku.co.jp/>
- 鉄道 えちぜん鉄道福井駅-福大前西福井駅下車
[J R 福井駅東口から出て三国芦原線で約10分]
*西口前の福井鉄道(路面電車)ではありません。
<http://www.echizen-tetudo.co.jp/>
- タクシー J R 福井駅-(約10分)-福井大学文京下車
[必ず「福井大学文京キャンパス」と伝えてください]
- 北陸自動車道 福井北JCT・ICから国道416号線で西へ約7km
福井ICから国道158号線で西へ約8km

交通機関(時刻表等)

J R 西日本	http://www.jr-odekake.net/
京福バス	http://bus.keifuku.co.jp/
えちぜん鉄道	http://www.echizen-tetudo.co.jp/

福井へのアクセス

大阪・京都方面から

- JRで 大阪・京都-湖西線経由-福井
(特急で、京都から約1時間30分、大阪から約2時間)
- 自動車で 大阪・京都-<名神>-米原JCT-<北陸>-福井・福井北JCT・IC
(京都から約2時間、大阪から約2時間30分)
- 高速バスで 大阪・京都-<名神・北陸>-福井
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間30分)

名古屋・静岡方面から

- JRで 名古屋・静岡-米原経由-福井
(名古屋から新幹線・特急で約1時間40分、特急で約2時間)
- 自動車で 名古屋-<名神>-米原JCT-<北陸>-福井・福井北JCT・IC (約2時間)
- 高速バスで 名古屋-<名神・北陸>-福井(約2時間50分)

東京方面から

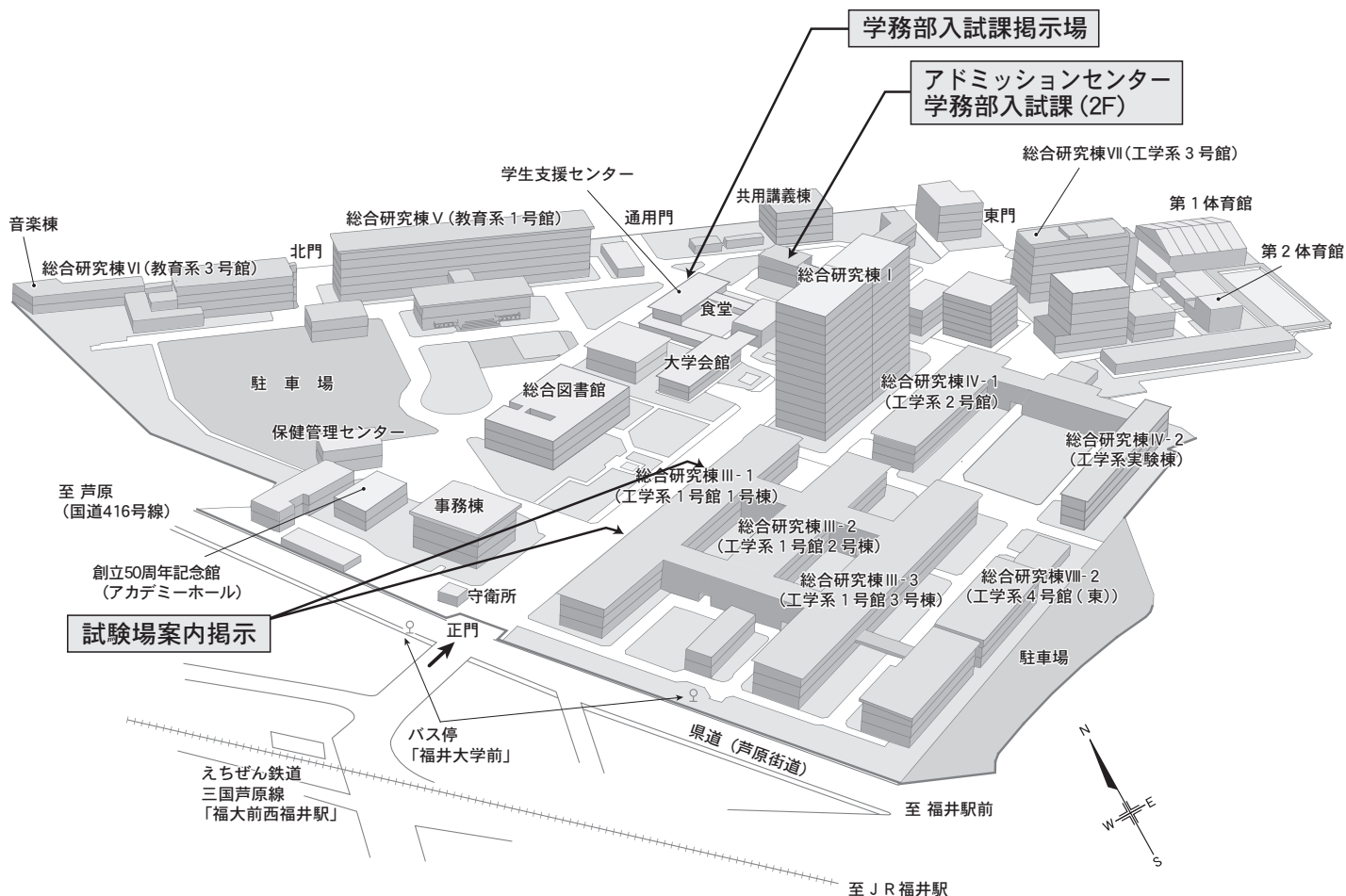
- 飛行機で 東京羽田-小松空港(1時間)-福井(連絡バス1時間)
- JRで 東京-米原経由-福井(新幹線・特急3時間30分)
- 自動車で 東京-<東名・名神>-米原JCT-<北陸>-福井・福井北JCT・IC
(約6時間30分)
※高速バスもあります。

金沢・新潟方面から

- JRで 金沢・新潟-福井(金沢から特急で約40分)
- 自動車で 金沢-<北陸>-丸岡・福井IC (約1時間)



福井大学建物配置図 (文京キャンパス)



《受験に関する問い合わせ先》

福井大学学務部入試課

〒910-8507 福井市文京3-9-1

TEL 0776-27-9927

<注意>

- ・本入試に関するすべての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- ・この学生募集要項以外に重要な通知がある場合は、本学ホームページの「受験生の方へ」内でお知らせします。
[福井大学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/>]
- ・電話での照会は、祝日及び年末年始を除く、月～金曜日の9:00～17:00に、この学生募集要項を手元に置き、必ず志願者本人が行ってください。